

明治150年記念 第38回 全国豊かな海づくり大会～高知家大会～

「森・川・海 かがやく未来へ 水の旅」をテーマに
平成30年10月27日、28日に高知県で開催

◆開催の意義

全国豊かな海づくり大会は、水産資源の保護・管理と海や湖沼・河川の環境保全の大切さを広く発信するとともに、水産業の振興と発展を図ることを目的に、天皇皇后両陛下の御臨席のもと実施される国民的行事である。

本年度は、高知県において「明治150年記念 第38回全国豊かな海づくり大会～高知家大会～」が開催された。

高知県は四国南部に位置し、北に四国山地、南に太平洋を臨む東西に長い扇状をしており海岸線の総延長は713Kmになる。県土の84%が森林ではあるが、海岸部に至る複雑で多様な地形・地質構造と温暖多雨の気候は、全国有数の森、川、海の県として自然環境の基盤を形成している。

水産業では、伝統の遠洋・近海かつお・まぐろ漁業をはじめ、釣・はえ縄、定置網、中型まき網、魚類養殖などの沿岸・沖合漁業や、あゆ漁などの内水面漁業から構成され、多種多様な漁業が営まれている。しかし、水産資源の減少、魚価の低迷、漁業就業者の減少と高齢化など水産業を取り巻く環境は厳しい状況にある。本県では、官民協働による地産外商を戦略の柱とする産業振興計画の推進を図り、漁業生産量の確保をはじめ、水産物の販売力の強化などに取り組んでいる。

こうしたなか、高知県での「全国豊かな海づくり大会」の開催は、自然豊かな本県の魅力やそこで育まれた水産資源を全国に発信し、水産業の振



大会公式ポスター

興と地域活性化を図るとともに、森と川からつながる豊かな海づくりに向けた取り組みを推進する大きな契機となった。

◆式典行事

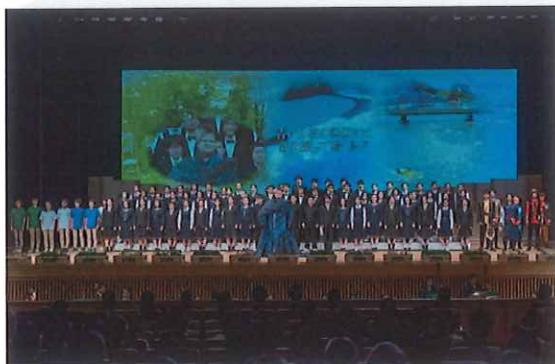
10月28日（日）、高知市文化プラザかるぽーとを会場に、天皇皇后両陛下の御臨席のもと、全国各地からの招待者682名が参加し、式典行事を開催した。

プロローグでは、「土佐の“偉人”に学ぶ水の旅」をテーマとして、環境保全活動を行ってきた“子ども海援隊”たちが、「舟母船」で水の旅をしながら、土佐の偉人たちから「高知の森・川・海のつながりの大切さ」を学んでいくことを表現した。

式典は、認定こども園潮幼稚園・うしお保育園の鼓笛隊の先導により、県立高知南高等学校の旗手団による大会旗入場で幕を開けた。



大会キャラクター
「くろしおくん」

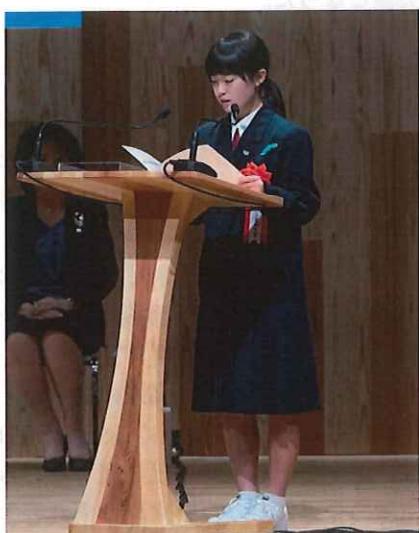


プロローグフィナーレ（海の賛歌）



大会旗入場

瀧澤満高知県漁業協同組合連合会代表理事長の開会のことば、大島理森大会会長（衆議院議長）と尾崎正直高知県知事の主催者あいさつ、岡崎誠也高知市長の歓迎のことば、功績団体及び作品コンクール受賞者代表の表彰に続き、作文コンクールで大会会長賞を受賞した明神陽奈子さん（土佐市立土佐南中学校3年）による作文「思い出とともに」の発表が行われた。



最優秀作文発表

次に、天皇皇后両陛下から漁業関係者へアマゴ、カジメ、ニホンウナギ、アサリの稚魚等のお手渡しが行われた。

続いて、環境保全活動を行う“子ども海援隊”たち、防災を学習している高校生、県内若手漁業者が海づくりメッセージとして「高知家発！未来の“海づくり八策”」を未来に向かって発信した。



稚魚等のお手渡し



「高知家発！未来の“海づくり八策”」メッセージ

岸宏豊かな海づくり大会推進委員会会長（全国漁業協同組合連合会代表理事長）が読み上げた大会決議を満場の拍手で採択し、大会旗を尾崎知事から、次期開催県の佐竹敬久秋田県知事に引継ぎ、土森正典高知県議会議長の閉会のことばで式典は幕を閉じた。

◆海上歓迎・放流行事

式典行事終了後、会場を土佐市宇佐しおかぜ公園に移し、海上歓迎・放流行事が開催され、全国各地からの招待者314人が参加した。

県立岡豊高等学校吹奏楽部による歓迎演奏により始まった。

明徳義塾中学・高等学校和太鼓部による勇壮な太鼓の音が響き、高知の夏の「よさこい祭り」を華やかに彩る旗組頭によるフラフが豪快に舞う中、漁船5隻と高知県海洋漁業調査船「土佐海洋丸」、高知県高速漁業取締船「くろしお」による海上パレードが行われ、高知県の代表的な漁法をわかりやすく紹介した。

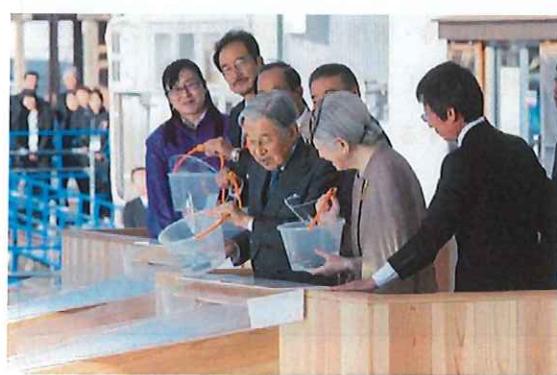


和太鼓演奏



漁法紹介と豪快なフラフ

その後、県立高知海洋高等学校、土佐市立土佐南中学校の生徒の介添えにより天皇皇后両陛下が、イサキ、イシダイの稚魚を放流され、続いて参加者が放流を行った。



稚魚の御放流

土佐市立高岡第一小学校の児童が「そらとうみ」を合唱するなか、両陛下が御退席をされた。



「そらとうみ」の合唱

◆絵画・習字コンクール優秀作品御覧

10月27日（土）、歓迎レセプションに先立ち、高知市の城西館において、大会行事の一環として実施した絵画・習字コンクールの優秀作品を展示し、天皇皇后両陛下に御覧いただいた。両陛下には、受賞した児童生徒に温かいお言葉をかけていただいた。



作品御覧

◆歓迎レセプション

同日、城西館での歓迎レセプションでは、天皇皇后両陛下御臨席のもと、県内外の大会関係者や功績団体表彰受賞者など202人が参加し、高知県の農林水産物を豊富に使った食でのおもてなしをするとともに、両陛下には、県内漁業関係者等と親しく御懇談をいただいた。



歓迎レセプション



ステージイベント

◆関連行事

10月27日（土）、28日（日）の両日、高知市中央公園で「豊かな海づくりフェスタ in こうち（第9回土佐のお魚まつり）」を、28日（日）には、県東部会場として室戸市「海の駅とろむ」、県西部会場として黒潮町「道の駅ビオスおおがた」において関連行事が開催された。各会場では、ステージイベント、物産販売やふるまい、式典行事や海上歓迎・放流行事のライブ中継など多彩な催しが行われ、約33,000人が来場した。



式典行事や海上歓迎・放流行事のライブ中継

大会決議

我が国は、四方を海に囲まれ、この海からの恵みにより、古より多様で優れた食文化を育んできた。ここ高知県は、全国一の森林率を誇る山々から、四万十川、仁淀川、物部川などを経て太平洋へ注ぐ壮大な水の循環が、美しい自然と豊かな資源を支え、沿岸域や内水面等においては、多種多様な漁業が営まれ、地域産業の発展や文化の継承に重要な役割を担ってきた。

私達水産関係者には、「豊かな海」という財産

を将来に引き継ぐとともに、国民に対し水産食料を安定的に供給するという重要な責務がある。本年は、ここ高知県において、「森・川・海 かがやく未来へ 水の旅」をテーマに、水産資源の維持・管理と、環境・生態系の保全の重要性を認識し、力強く取り組んでいくことをここに決議する。

平成30年10月28日

第38回全国豊かな海づくり大会

(高知県水産政策課 全国豊かな海づくり大会推進室)